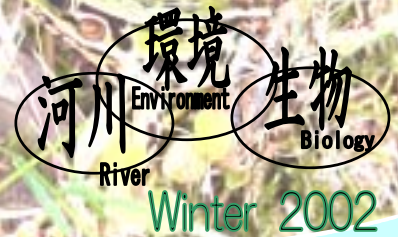


身近な自然の情報紙

# かんきょう便り Vol.1



- 創刊にあたり -

私達は主に河川環境調査や生物の調査を行なっております。  
 こうした仕事や日常生活を通じて得られた、身近であると同時に貴重な自然に関する知識・情報を  
 皆様をはじめ次の時代を担う子供たちに発信していけたらと考え、かんきょう便りを発行することになりました。

環境課 今井 宣弘

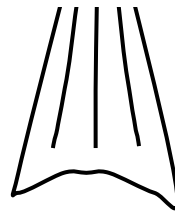
## 冬の使者 カラフトワシ

今年もやってきました

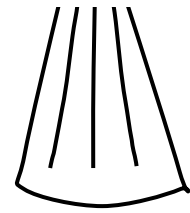


### <カラフトワシの観察方法>

カラフトワシの簡単な識別方法として“鳴き声”が挙げられます。トビが『ピーヒョロヒョロ』と鳴くのに対し、カラフトワシは『キョッキョッキョッキョッキョ』と独特の鳴き方をするので、鳴き声を頼りに探せば初心者でもすぐに見つけられます。体長はトビよりひとまわり大きく、尾羽が凸尾となっている点で凹尾のトビと区別できます。



トビ



他のワシ・タカ類  
(カラフトワシ)

川内市高江町に今年もカラフトワシがやって来ました。カラフトワシは、極めて稀な冬鳥として日本に飛来します。高江地区には、平成4年11月に初確認されて以来、今年まで10年連続で飛来して来ており、“カラフトワシの越冬地”となっている貴重な場所です。高江地区は、九州三大河川のひとつである川内川と広大な高江山地に囲まれた沖積平野で、古くから水田地帯として栄えた場所です。この豊かな里山の自然環境と暖かく見守ってくれる地域の人たちがカラフトワシはすっかり気に入っているようです。

カラフトワシが見られる期間は、例年11月上旬～4月上旬までです。晴天日の午後になると、長崎堤防付近の上空や高江田園部上空で帆翔しているカラフトワシが観察できます。時には、カラスに追い立てられすぐ近くまで急降下してくることもあります。

カラフトワシの他にも高江地区では、ミサゴ、チョウゲンボウ、チュウヒ、ハイタカ、ハヤブサ、コミミズクなど数々の猛禽類が観察されています。

執筆 徳永 修治

ハニツカメムシ(ツチカメムシ科)

# 生き物の冬



右:オカマカリ卵のう(カマカリ科)  
右下:北ガマ雌花(ガマ科)

下:ニホヒカガイル(ヒカガイル科)



## 希少野生生物語り①

ヤッコソウ(ヤッコソウ科)

*Mitrastemon yamamotoi*

- ヤッコソウ - とは良く言ったもので、  
姿形が奴(やっこ)さんに似ている、という  
のが私の名前の由来でございます。成る程  
確かにバンザイをした可愛い奴さんに見え  
て、なかなか評判がよろございます。  
しかし最近住まいのシノキが伐採され、  
住む家を追われること度重なり、仲間も減  
ってまいりました。誰かいいシイ林を紹介  
していただけませんか？

日本の南部を中心に分布。シイ林(スダジイ等)  
の根に寄生する。各地で天然記念物に指定  
されている。鹿児島では東市来町等。

執筆 宅間 友則





ちょっと一息



ウマ語録

新年明けましておめでとうございます。皆さん如何ウマくお過ごしですか？

今年は午（ウマ）年、どんな年になるやら……

ウマの背にまたがって颯爽と駆け抜ける…なんて訳には行かないかな～

生きウマの目を抜くこの御時世、ウマイ話にや気をつけて

それでもウマの耳に念仏と云われぬよう

仲が良いのはウマが合う証拠、馬と猿ってたとえもある。えっ知らん（。・。？

世間を騒がせたテロリスト集団はさしずめ何処のウマの骨か馬鹿者か！

ところで、昔は干支で時節を表現したそう。子（鼠）は冬至で北を、

午は夏至で南を意味し、南北を結ぶ線は「子午線」となった。

又、昼の12時頃は「午の刻」と呼んだ。そこで昼の12時を「正午」

それより前は「午前」、それより後は「午後」と言うようになったとさ。



By 馬耳東風

## 気ままに川内川 -1-

私達の町を流れる川内川については、みなさんいろんな印象や風景を思い浮かべるとおもいます。このシリーズでは、それを私なりの観点から紹介し、皆さんが、何か新しい発見や見方をしてもらえたら嬉しいなと思っています。

それでは、一応最初に川内川の簡単な説明をしておきます。源流は熊本県の白髪岳で、宮崎県、鹿児島県を流れ東シナ海に注ぐ、全長約137kmの九州第2位の長さをもつ川です。

そこで、今回は川内川をちょっと高い所からみた風景を紹介します。場所は、鹿児島県始良郡吉松町の魚野パラグライダー基地からみた川内川です。



左は川内川の上流方向を写したものです。上に広がる街は、宮崎県えびの市で、手前は鹿児島県吉松町です。川内川が鹿児島・宮崎両県にまたがっている様子を写したものです。



右は下流方向を写した写真です。手前の町が吉松町で、その先に写っているのが霧島の山々です。霧島の山々に降った雨の一部は、川内川にも流れ込ん

できます。以外？に霧島の山々と川内川って関係があるということです。写真ではあまりよく分からないと思いますが、後は実際吉松町まで足を運んでみて、なーんとか実感して頂ければと思います。

と、こんな感じで、気ままに川内川を紹介していきたいと思います。執筆 橋口 政信

# 水のはなし

私たちの生活に欠かせない水（淡水）は、地球上に存在する水に対しどれくらいあるのでしょうか。地球上に存在する水の総量は、13.9億 km<sup>3</sup> と言われています。その中でも、海水が約97.2%と大部分を占め、淡水はわずか2.8%を占めるにすぎません。しかも、この淡水のうちの大部分は、南北両極地方に存在する氷で、私たち人間が利用可能な淡水はせいぜい0.8%程度です。さらに中でも、私たちの身近な川に存在する水は、全水量の0.0001%と地球上の全水量から見た場合、きわめて少量なのです。

私たち人間をはじめとした陸上生物の大部分は、この僅かな淡水を利用して生命を育んでいます。とりわけ人間は、おいしい水を好みます（他の生物もおいしい水を好むに違いない）。では、おいしい水とはどんな水なのでしょうか。

【水をおいしくする要素】		【水をまずくする要素】	
ミネラル	味を左右する成分でカルシウム、マグネシウム、ナトリウム、カリウム、鉄、マンガンなど。これらが多くなるほど苦味や渋みが増す。適量だと“こく”のある“まろやか”な味になる。	過マンガン酸カリウム消費量	有機物の量を示すもので、数値が高いと汚染度が高い。このような水は、浄水場での塩素使用量も増大し、味が損なわれる。
硬度	カルシウムやマグネシウムを含む割合。硬度が高い水ほど苦味が増し、低いほど味気の無いまじい水になる。	臭気度	臭気が高くなる原因は、化学物質をはじめ藻類など様々で、不快な味の基になる。
炭酸ガス	天然水には必ず含まれており、適量含まれていると口に爽やかな清涼感を与え、多すぎると刺激が強く、少ないと気の抜けた味になる。	残留塩素	多いといわゆる“カルキ臭”をもたらす水をまずくする。
水温	適温は10～15の範囲。一般的に高いより低い方がおいしさを感じる。		

私たちの住む日本は、文化的にも水を大切にし、地域的にもおいしい水がある国と言われています。しかし近年では、化学物質や人間の排出物質などにより、おいしい水またはおいしく飲める水が減少していることも確かです。そこで私たち人間は、地球上に存在する僅かな淡水の中の“おいしい水”が今後減らぬよう努力していきたいものです。このことは、人間と会話のできない他の生物たちも切に願っていることでしょう。

参考文献：平澤猛男、「水のふしぎ発見」、山海堂、2001 執筆 角 成生



鯰のあっさり蒲焼き

## 川魚食のすすめ 身近な川魚のおいしい話①

“ナマズ”と聞いて、先ず頭に浮かぶのが、あの珍妙な顔立ちだろう。あの面構えでは味も...と思いきや、実は高タンパク低カロリーの健康食品。身はきれいな白身で、脂肪も少なく、ウナギよりもあっさりしているのだ。文献によると、ひと昔前はかなり頻繁に食べられていた川魚、ナマズ。是非一度賞味されたし。

# 鯰

なまず

(ナマズ科)

ほぼ全国の湖沼や川の中・下流にすみ、夜行性できわめて食欲旺盛。小魚やカエル等を食べる。産卵は5～6月、田植えの終わった水田等で行うが、川や水路が整備されるにつれ、産卵が難しくなっている。 執筆 宅間 友則

かんきょう便りと題して身近な河川・環境・生物などについて年4回、季刊として発行していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。ご意見、ご感想、また環境や生物に関する質問等、お待ちしております。 (編集室一同)